

必ずお読みください

< ウッドテラス >

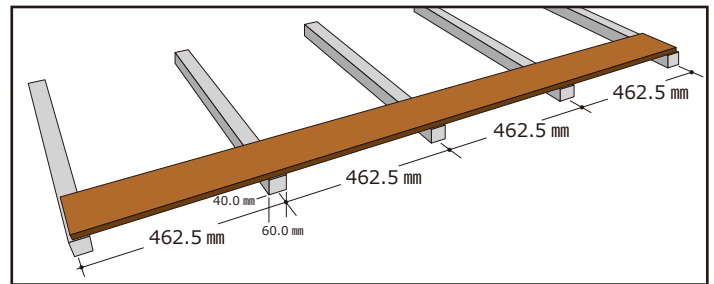
バンブークラシカルデッキ (DPBB-137180)

施工説明書

1 下地準備

- 根太は防腐処理済みの木材を使用してください。亜鉛メッキスチール根太とアルミ合金根太を使用する場合は必ず厚み3mm 程のものを使用してください。
- デッキ材はリブ面・フラット面の両面使いが可能です。リブ面使用の場合は、デッキ床面に水がたまるのを防ぐために、施工時に1～2度の傾斜度をつけてください。
- 根太サイズは幅が40mm 以上の物を使用してください。

- 根太ピッチは462.5mm 以内にして、一枚に対して5本の根太に乗るようにしてください。
カットしたデッキ材は少なくとも三本の根太に乗るように施工してください。
(根太ピッチの距離は通常 ≤ 462.5 mm です)



- 根太の長さが足りない場合、次の根太との間は5～8mm の隙間をあけて施工してください。
- 根太はコンクリート地面と接触しないように施工してください。



- 非コンクリート地面での施工は湿気を防ぐために風通しを良くし、地面から少なくとも150mm の隙間を空けてください。



コンクリート地面



非コンクリート地面

2 1列目の取り付け

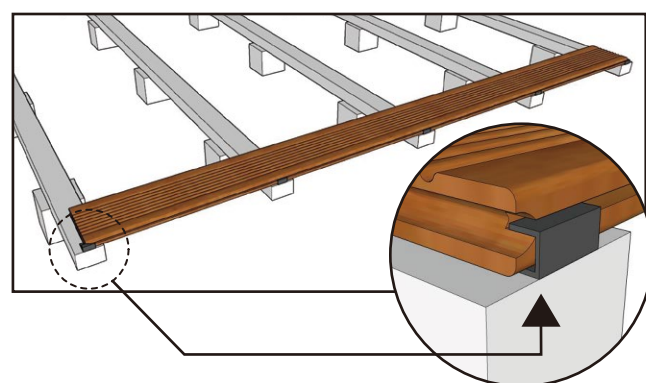
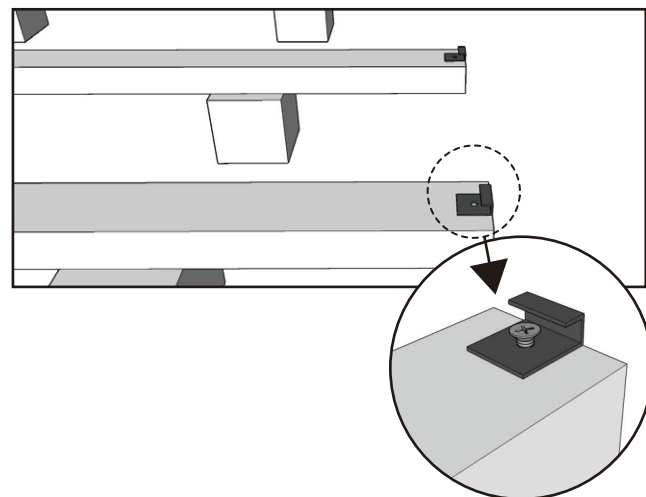
1列目を設置する前に、根太に留め具（専用コ型金具）を設置します。この留め具は施工上必須ではありませんが、デッキを簡単に取り付けることができるだけでなく、取り付け後の全体的な美観の上で重要な役目を持ちます。

最終列にも同じく設置をしてください。

※専用コ型金具は、別売でご用意しております。

1列目を金具に噛ませるようにしっかりとめ込んでください。

❗ 設置効果を最大限に発揮するために、コ型金具の設置は確実に行ってください。



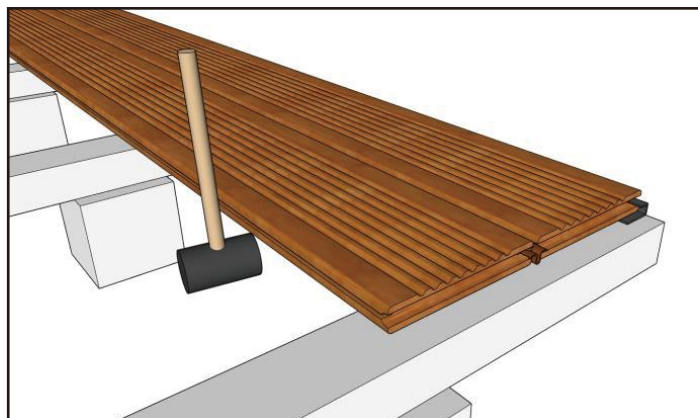
3 デッキの連結

1枚目の位置に合わせて2枚目を設置します。長手方向のジョイント部分の留め具（同封の専用U型クリップ）の設置をやすくするために、5mm程度の隙間を開けてください。

※専用U型クリップは、別売でもご用意しております。



1枚目と2枚目の隙間から留め具を差込み、2枚目の実をゴムハンマー等で軽く叩いて寄せます。小口側の2つのデッキ材をジョイントする場合、別々の根太に載せて、それぞれのクリップで固定してください（**4** 施工時の注意事項参照）。



4 デッキのビス留め

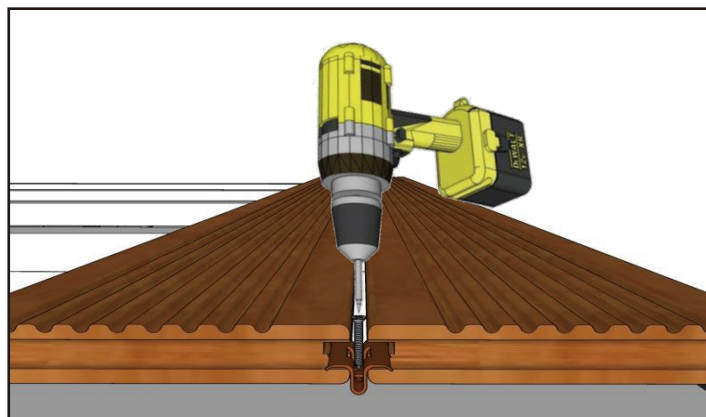
隙間の上から同封の専用ビスを打ち込み、固定させます。
上記を繰り返して完成です。

留め具が滑り落ちることを防ぎ、より安全効果が高まります。

!

ビスの頭は、必ずデッキ面より下になるように止めてください。
また、ビスを強く締め付け過ぎないようにご注意ください。

※締め付け過ぎると取付孔の破損や、緩みの原因になる恐れがあります。

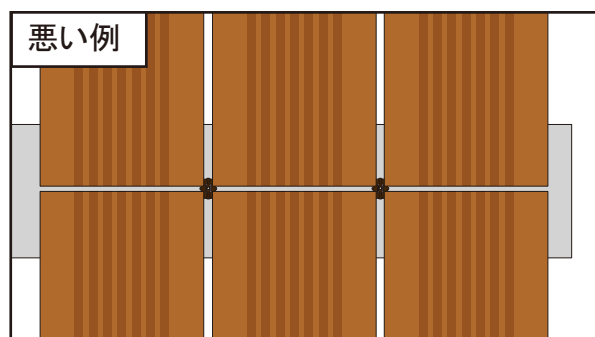
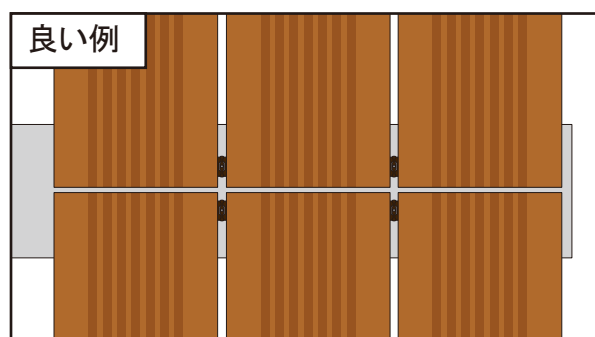
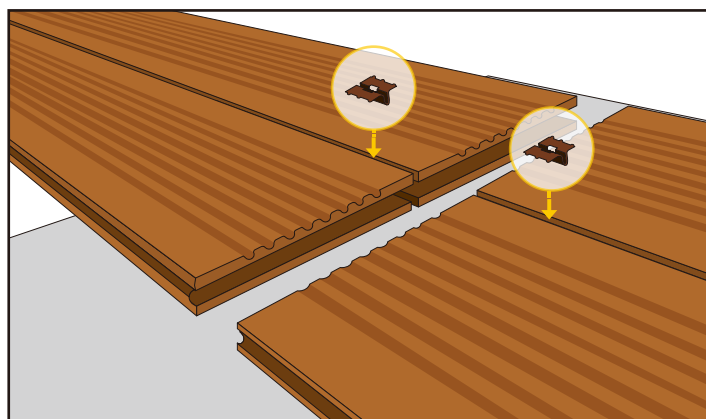


※場所によってはカットが必要になりますが、カットした断面は必ずデッキオイル (OSMO#420 推奨) を塗ってください。

※エッジ部分はビスで固定する必要があるため、あらかじめ確認して線を引きます。直径 3.2 ～ 3.5mm の下穴を開けてビスで根太にしっかり固定してください。

施工時の注意事項

U 型の留め具は、デッキ材の長手方向の溝に設置してください。
小口面に設置すると、留め具が安定せず外れてしまう恐れがありますので、お止めください。



お施主様にお渡しください。

＜ウッドテラス＞バンブークラシカル (DPBB-137180) 屋外高耐デッキ材 使用時のポイント

① 乾燥割れの処置

木材は「生き続けている素材」であるため、温度・湿度といった環境変化に応じて膨張収縮を繰り返しています。その結果、木材表面に細かな割れ、いわゆる「乾燥割れ(干割れ)」を生じます。木材の強度を損なうのでは、との心配もあるかもしれませんが、乾燥割れは表面のみに起こる現象であり、強度に影響を与えないという研究結果が報告されています。

しかし、美観的に乾燥割れはマイナス要因となるため、割れを抑えられるタイプの塗料を使用すれば、軽減できます。工務店様などにご相談ください。

② 色の染み出しの処置

木材のなかには水に浸けられると色が染み出すものがあります。これを「溶脱」といいます。常に風雨にさらされているデッキ材を選ぶ際には、この溶脱の度合いを知った上で、それが周囲に及ぼす影響も考慮に入れておく必要があります。

特に2階部分に施工する場合や白い壁の付近に施工する場合にはご注意ください。

なお、デッキ材から溶脱した色が周囲の白壁などを汚してしまった場合、界面活性剤入りの洗剤を使用してブラシでこすれば簡単に落とすことができます。

③ 変色の処置

木材はどんな樹種でも経年変化により灰色に変色します。どうしても変色を防ぎたい場合は、顔料を含んだエナメル塗料やウレタン塗料で塗装することである程度防ぐことができます。しかし、直接風雨にさらされるため、塗装の劣化は避けられません。定期的に塗り直しが必要になります。最近では、この灰色への変色を他にはない”味”として積極的に捉え、あえて意匠的に活かすケースも増えています。

④ 塗装の塗り替え

木材の保護の為、定期的な塗装をおすすめします。

塗装時は、木材に水分が多く含まれているまま塗装すると、塗装の内部でカビなどが発生する原因になりますので塗り替えを行う際は、晴れた日が続いた後に実施してください。含水率20%以下が目安です。

ウッドテラスは、インテリアとエクステリアをつないでくれます。

デッキ材の中でも耐久性・環境性・安全性を備えた商品をご用意いたしました。

庭という一番近い自然の中で、日光浴やガーデニングをお楽しみください。